

(参考資料)

ジェロントロジーとは・・・
東京大学高齢社会総合研究機構とは・・・

Gerontology
Gerontology

2020年4月

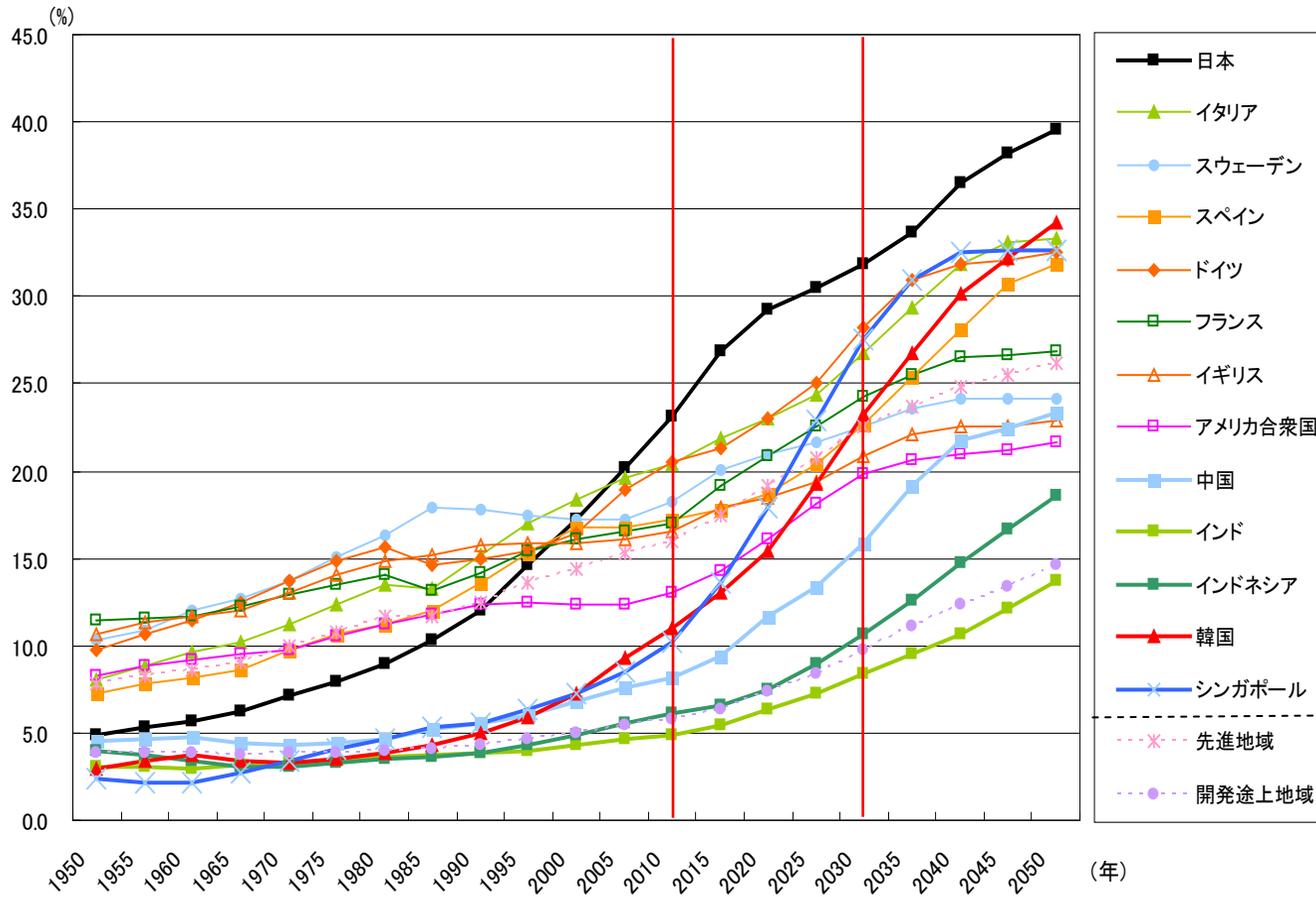


ニッセイ基礎研究所 ジェロントロジー推進室
東京大学高齢社会総合研究機構 (IOG)

～「高齢化最先進国」の日本！～

日本は世界に先例のない**高齢化最先進国・フロントランナー**(=超高齢社会のモデル)

<世界各国の高齢化率の推移と推計>



**超高齢国家として
世界が今後の日本の
動向に注目**

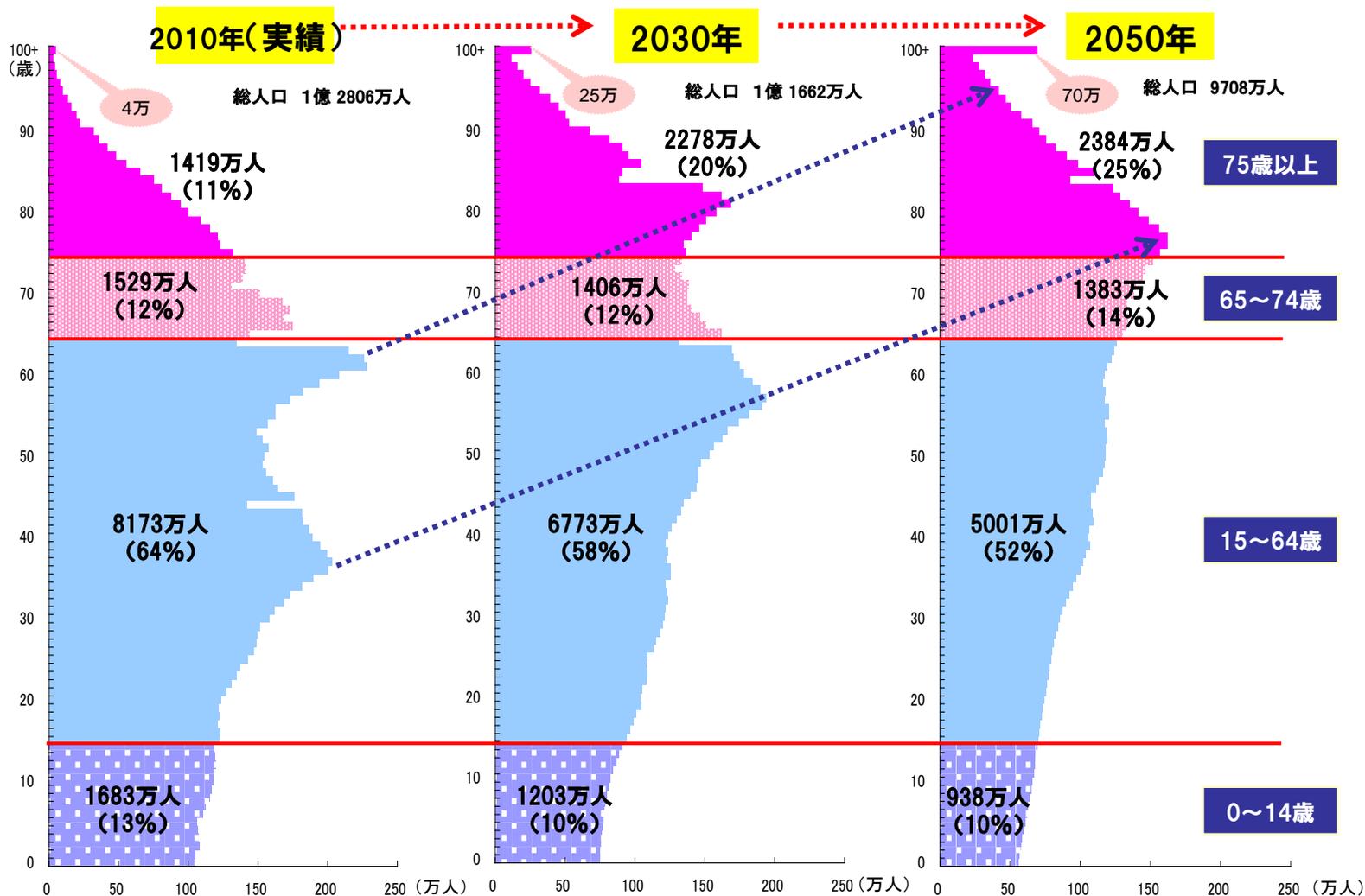
**アジア各国が急速に
高齢化
(韓国・シンガポール等)**

**2030年の中国の65
歳人口は2.3億人に
(日本の約6倍)**

※先進地域とは、北部アメリカ、日本、ヨーロッパ、オーストラリア及びニュージーランドをいう。開発途上地域とは、アフリカ、アジア(日本を除く)、中南米、メラネシア、ミクロネシア、ポリネシアからなる地域をいう。
資料: UN, World Population Prospects: The 2010 Revision ただし日本は、総務省「国勢調査」及び国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(2012年1月推計)」の出生中位・死亡中位仮定による推計結果

～超高齢未来の姿(人口構成変化)～

2030年には65歳以上は3人に1人、75歳以上は5人に1人の割合に



～高齢化課題は山積⇒課題解決先進国へ～



- 持続性ある社会保障制度の再構築(**社会保障**)
- 労働力の減少、国際競争力確保(**労働力、GDP、経済**)
- 医療、介護の諸問題(量的・質的)、病院・施設の対応限界(**医療・介護**)
- 無年金、低年金者への対応、生活保護の増加(**年金、生活保護**)
- 公共インフラ・住宅の老朽化、団地・民間マンションの建替問題(**住宅政策**)
- 交通システムの再構築、地域全体のバリアフリー化(**交通政策**)
- 高齢者の閉じこもりと孤独死問題(**無縁社会化**)
- 地方の過疎化、消滅問題(**地方の高齢化**) 等

⇒高齢化課題は山積、対策が急務!

- 老後の家計が心配(**長生きリスク**)
- 老親の介護、配偶者の介護・認知症が心配(**介護・認知症問題**)
- 働きたい場所がない、リタイア後の居場所・活躍場所がない(**就労・生きがい**)
- 虚弱時の生活不安(買物、移動、家事他)(**生活サポート**)
- 終の棲家、円滑な住み替えができるか?(**住まい・終末期の生活**) 等

⇒高齢期の“安心と生きがい”・・・?



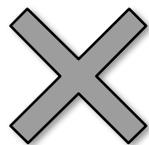
～理想の未来を築けるか、いまがその過渡期～

本格的な超高齢・長寿社会は**目前に迫っている**

⋮
(残り10年)
⋮

2030年

自殺大国
難民大国
孤独大国



笑顔溢れる
未来社会



～笑顔溢れる超高齢・長寿社会に向けた解決策(大きな方向性)～

様々な高齢化課題が顕在化
しかし、高齢化はグローバルな現象、日本は「高齢化最先進国」
課題⇒チャンス⇒課題解決
⇒「高齢化課題解決先進国」=日本の発展！

超高齢未来の創造

【社会】安心して活力ある超高齢社会の創造

新しい社会システムづくり
超高齢・長寿時代に相応しい
新しい生き方づくり

【個人】人生100年時代の人生設計

ジェロントロジーとは・・・

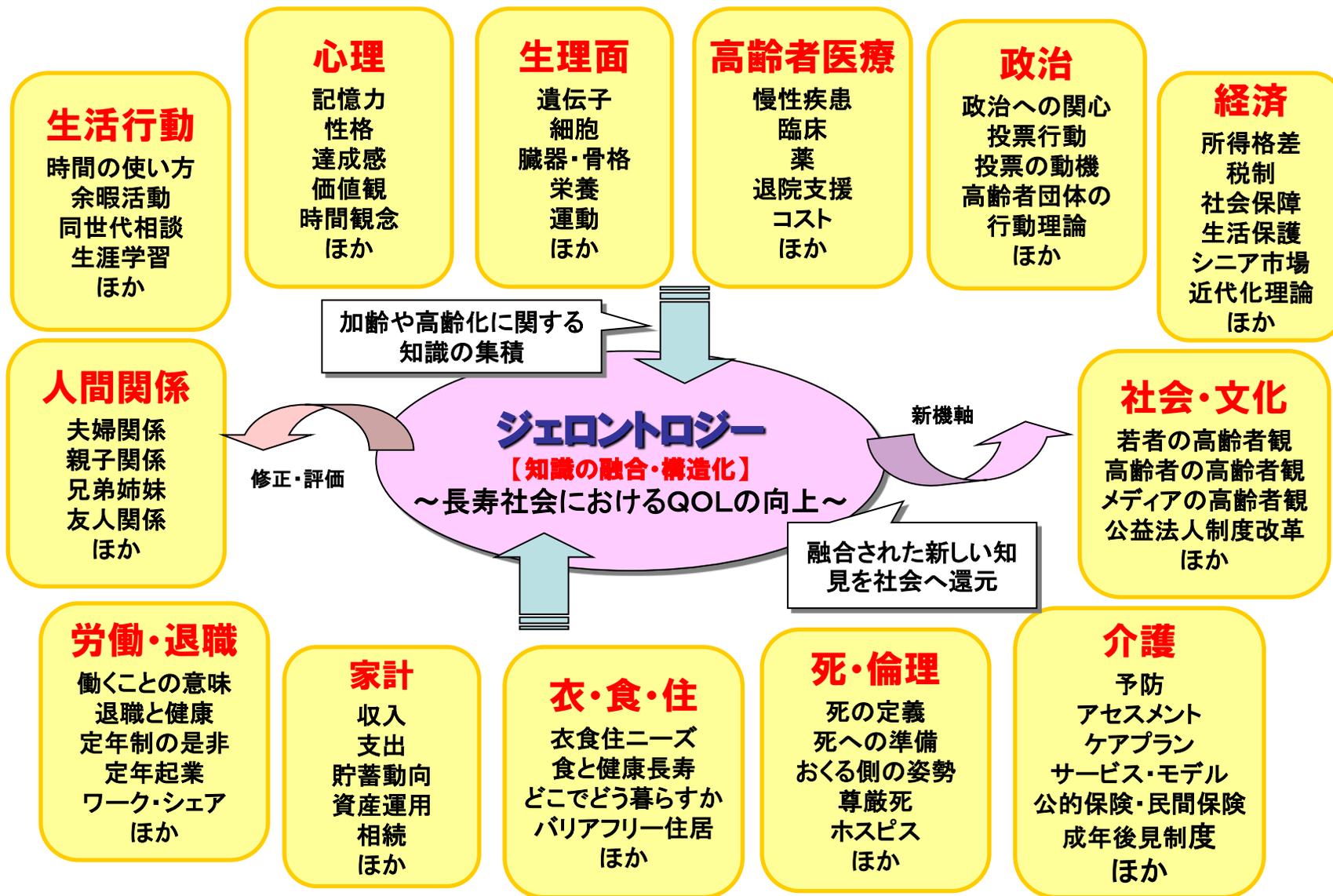
Gerontology Gerontology

“高齢化課題解決の担い手・プラットフォーム”

(テーマ1) **超高齢未来**に相応しい**社会システム**再構築

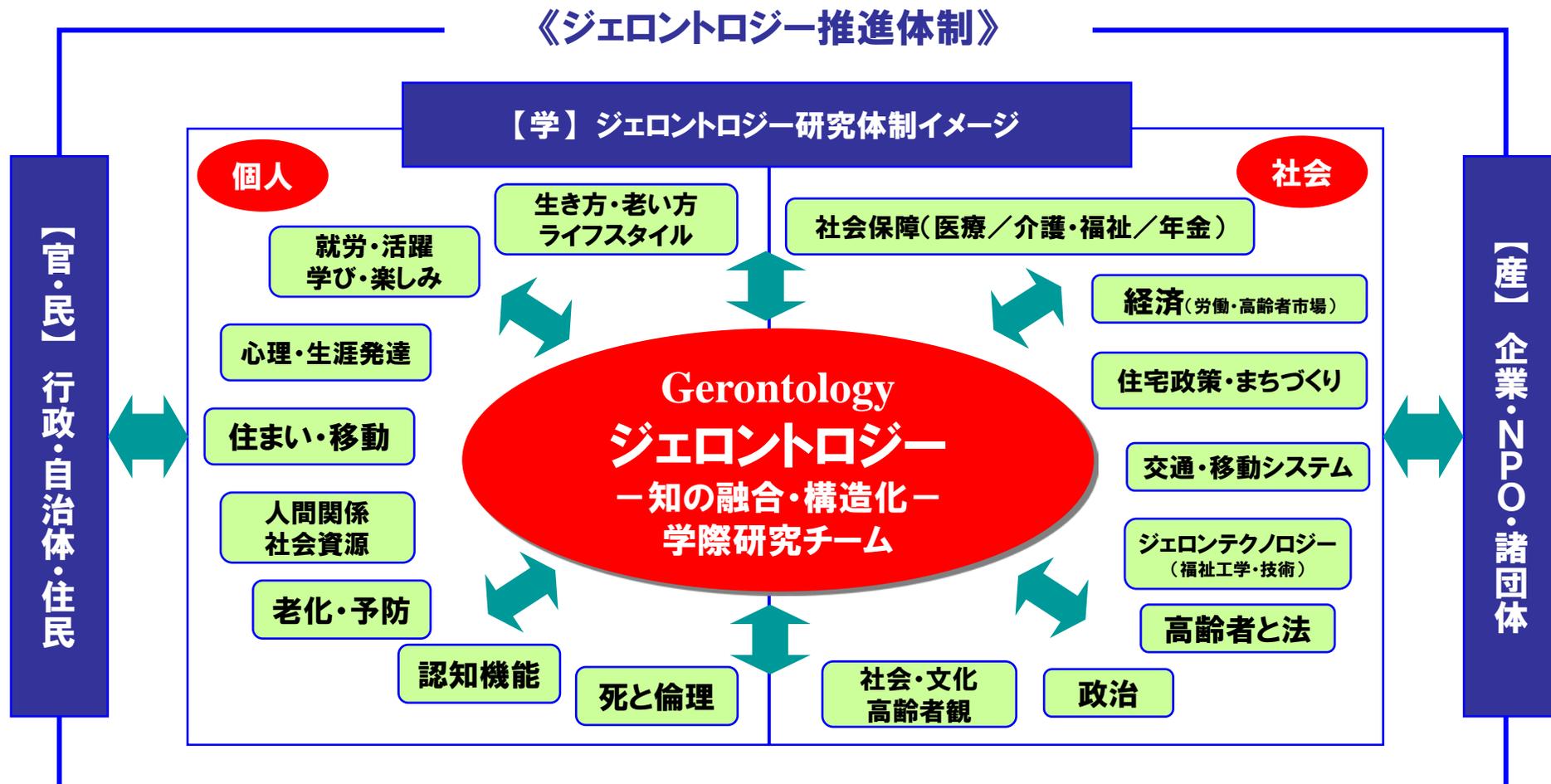
(テーマ2) **長寿時代**に相応しい**人生設計**の再構築

ジェロントロジーとは・・・①(研究イメージ・研究範囲)



高齢化の問題は一つの領域だけで解決することはできない。
高齢化・エイジングに関わるあらゆる領域の「知」を集めて、課題解決に臨むことがジェロントロジーの特徴であり醍醐味。

ジェロントロジーとは・・・②(研究推進体制)



高齢化課題解決 ⇒ 超高齢未来(生活・社会)の創造

ジェロントロジーとは・・・③(概要)

○「加齢と高齢化に関する学際的学問」

－年をとるとどうなる？社会が高齢化する。その課題と解決策は？

－エイジング（加齢・高齢化）に関する研究成果を集積して新たな価値を創造

○Gerontology ⇒ Geront（高齢者：ギリシャ語）+ ology（学）←造語

○「老年学」「加齢学」・・・「長寿学」「高齢学」「熟年学」「創齢学」「人間年輪学」「長寿

社会の人間学」「人生の未来学」「生きがいの科学」「人生を豊かにする幸せの学問

（日本生命）」「安心して活力ある長寿社会を実現する学際科学（東京大学）」等

○ジェロントロジーの機能

①教育 + ②個々の研究 + ③学際組織のプラットフォーム機能（実学）

○ジェロントロジーの扱われ方

高齢者研究・高齢社会研究（狭義）⇒未来社会（=超高齢社会）を創造する基盤

+ 人生100年時代の人生設計を構築する基盤（広義）

※決して高齢者だけの問題ではない。次代の高齢者である若者にとっても重要な実学

社会的期待

ジェロントロジーとは・・・④(歴史・ステータス)

世界の 歴史 ステータス

- 1930年代以降、米国で急速に発展
- 米国では約300の大学・研究機関でジェロントロジーの教育と研究が行われている
- 国連からは「ジェロントロジーの教育研究の推進」を各国に勧告(1981年大会)
- 欧州でも各国共同での「ジェロントロジー教育プログラム(EuMag)」がスタート(2003年～)

日本の 現状

- H9(1997)厚生白書で「ジェロントロジー教育の必要性」が明記
- 日本老年学会を中心とした学会活動は存在
⇒社会的な認知度は極めて低い状況
- 日本生命等の支援により「**東京大学総括プロジェクト機構ジェロントロジー寄付研究部門**」が誕生(2006年度～)
⇒2009年度より、「**東京大学高齢社会総合研究機構**;**The Institute of Gerontology(IOG)**」に生まれ変わり、
ジェロントロジー研究は本格化 ⇒社会の注目・期待の高まり

<補足> ジェロントロジーの特徴・効果説明①

ジェロントロジーの特徴
そもそもこの学問としての

これまでのエイジング(加齢)研究
『**身体**』としてのエイジング研究

○医学・生物学的視点が中心の加齢研究

⇒老化・機能低下が強調され、**高齢者=弱者**の印象・考え方が研究者に浸透

ジェロントロジーでは…
『**人間**』としてのエイジング研究

QOL (Quality of Life) 向上の視点による加齢研究

生物学的視点 ■ 身体の加齢変化	心理学的視点 ■ 心と知能の加齢変化
社会心理学的視点 ■ 個人と周囲の関係	社会学的視点 ■ 社会の高齢化の影響

QOL向上に向けた相関関係を研究

高齢者の強み・弱みが明らかとなり、加齢を正しく理解することが可能に

高齢化に関する学際研究として発展

①より良い介護のあり方について

ジェロントロジーの効果
事例イメージ①

要介護者への対応

- ・家族任せの対応(介護保険導入前:措置対応)
- ×寝かせきりも当たり前
- ×慣れない施設での生活

- ×あくまで病人として、医療を中心に対応

ジェロントロジーでは…

要介護者のQOL向上に向け、多面的なサポートの可能性を追究

- 本人・家族の心理を研究
- 介護ロボットの開発・導入
- 全人的なケア追究
- 地域福祉政策
- 予防・リハビリの効果検証
- 食事・栄養・口腔ケア
- 医師・看護師・介護士の連携

医学・看護学・介護学・工学・心理学・社会学・福祉学・行政学等、あらゆる分野が参加することで、要介護者及び家族のQOL向上

<補足> ジェントロジーの特徴・効果説明②

② 高齢者の就労問題について

ジェントロジーの効果
事例イメージ②

高齢者の就労環境

- ・定年制度の下、高齢になれば引退
- × 働きたくても働く場がない (生きがい消失)
- × 収入は減少 これからの人生はまだ長い (将来不安)
- × 高齢になれば能力が低下するという思い込み



ジェントロジーでは・・・

高齢期の活躍場所の拡大に向け、学際的視点からの研究・取組みを推進

年齢によらない本人の就労能力を適正に評価する手法の開発

地域社会の支え手としての高齢者の活躍場所・しくみを構築

高齢者の雇用機会拡大に向けた政策提言



医学・心理学・労働学・社会学・行政学等が参加することで年齢に対する偏見を科学的に払拭し、高齢者の活躍場所の拡大を実現

③ 地域の安心・街づくりについて

ジェントロジーの効果
事例イメージ③

地域の安心・環境・街づくり

- ・生活者を基点とした街づくり・行政サービスが十分でない
- × 独りで買物にも行けなくなったら・・・
- × 病院にも施設にも入れない
- × 家族は遠く、近くに友人もない
- × 最期まで自宅で暮らし続けられない現実



ジェントロジーでは・・・

最期まで安心してより豊かに自宅で暮らし続けられる地域を創造

24時間対応の在宅医療福祉制度の構築

遠隔医療の導入

住宅福祉政策 地域全体のバリアフリー化

生活支援・見守り強化・移動サポート

地域交流促進



医学・看護学・心理学・社会学・工学・建築学・行政学等及び地域行政・産業界が参画することで、超高齢社会に相応しい地域創造を実現

東京大学高齢社会総合研究機構で取組中(東大-柏モデル)



The Institute of Gerontology

東京大学高齢社会総合研究機構とは・・・

2006-08年

東京大学総括プロジェクト機構ジェロントロジー寄付研究部門

日本生命他
が設置

昇格

2009年～

東京大学高齢社会総合研究機構

東京大学の恒常的
組織として設置



ジェロントロジーの目的である「**安心で活力ある豊かな超高齢社会の実現**」に向けて、行政(自治体)や企業とも連携をはかりながらジェロントロジー研究活動を推進する拠点

東京大学ジェロントロジーの沿革①

(2005年度)

(2006/4)

(2004年)

企画・構想
秋山弘子教授
ニッセイ基礎研究所

日本(東大)における
「ジェロントロジー教育研究
組織」の設置

「ジェロントロジー教育研究組織立ち上げ準備委員会」@東大

「ジェロントロジー寄付研究部門」の設置(06-08...3年間)

(6名からスタート)
【専任】秋山弘子
・大内(医学)
・甲斐(心理)
・岩本(経済)
・武川(社会)
・佐久間(工学)



日本生命
セコム
大和ハウス
3社による支援

開設記念シンポジウム「健康寿命100歳を実現する学際科学」
2006年6月3日(土)於:東京大学安田講堂

<当日のプログラム>

- ①「知の構造化とジェロントロジー:課題解決先進国日本へ」 小宮山宏 東京大学総長
- ②「健康寿命100歳を実現する学際科学プロジェクトの概要」 秋山弘子 ジェロントロジー寄付研究部門教授
- ③寄付企業挨拶(日本生命保険相互会社、セコム株式会社、大和ハウス工業株式会社)
- ④「古今東西、人間はいくつになっても常に新人である」 日野原重明 聖路加国際病院理事長
- ⑤「長寿社会のバイオニア・日本への期待」 ジョン・キャンベル ミシガン大学教授
- ⑥「共生社会の総合政策とジェロントロジーの親和性」 林幹雄 内閣府政策統括官(共生社会政策担当)
- ⑦「高齢者医療最前線」 井藤英喜 東京都老人医療センター院長
- ⑧「長寿社会の食育・知育」 柴田博 桜美林大学大学院老年学教授
- ⑨「シニア向けモノづくり工学の事例と課題」 佐久間一郎 大学院工学系研究科教授
- ⑩「夢・希望・輝く未来の姿を求めて」 村田昭治 慶應義塾大学名誉教授
- ⑪滝野文恵とジャパンポンポンによるシニアチアリーディング(アトラクション)
- ⑫フロアーとジェロントロジー寄付研究部門運営委員とのディスカッション
- ⑬閉会挨拶(岡村定矩 東京大学副学長)



東京大学ジェロントロジーの沿革②

《2006～08(3年間)》

(2009/4)

《2009～13(5年間)》

研究体制・学内ネットワークの構築

学部横断ジェロントロジー講座の開講(08-)



【地域連携】研究体制の調整・整備

⇒ 柏市・福井県との共同事業の検討・準備

【産学連携】研究体制の調整・整備

ABM(アドバイザー・ボード・ミーティング)における起案(2008/9)※AMB: 東大総長が経済界のトップを招聘して設置する諮問機関

第13回科学技術交流フォーラム「ジェロントロジー」を開催(2008/12)

⇒ ジェロントロジー・コンソーシアムの参加募集

ジェロントロジー啓発活動を継続

⇒ 「ジェロントロジー・セミナー」の継続開催他

「高齢社会総合研究機構(IOG)」へ昇格・設置

“80名体制に拡大”

【機構長】鎌田実
【専任】秋山弘子/辻哲夫

柏キャンパスにIOG拠点を建設
(第2総合研究棟)
※本郷に加えての拠点拡大



柏市「長寿社会のまちづくり」事業(09-)



被災地における仮設・復興まちづくり支援活動(12-)

産学連携「ジェロントロジー・コンソーシアム/ネットワーク」活動(09-)



東京大学ジェロントロジーの沿革／今後の方向性③

《2014～》

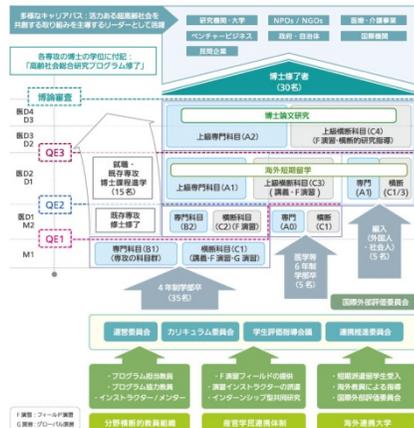
《今後の方向性》 **組織の多様化、活動の複線化、課題解決・社会実装の推進**

「高齢社会総合研究機構」IOG（6年目）

【機構長】大方潤一郎(2013～)
【専任】秋山弘子/辻哲夫/飯島勝矢

ジェロントロジーの大学院 の設置・開講
(2014/4)

活力ある超高齢社会を共創する
グローバル・リーダー養成プログラム
Global Leadership initiative for
an Age-Friendly Society (GLAFS)



(東京大学内組織)

高齡社会総合研究機構 (IOG)

- 【い】 在宅医療ケア研究チーム
- 【しょく】 セカンドライフ就労研究チーム
- 【じゅう】 まちづくり研究チーム

柏・福井・岩手等の地域連携事業、その他共同研究・基礎研究等を通じた高齢化課題解決の推進 (モデルづくり・政策提言)

2014

ジェロントロジー大学院 (GLAFS)

ジェロントロジーのリーダー育成 (社会へ輩出)

産学連携組織 (2009-)
ジェロントロジー・ネットワーク

シルバー・イノベーションの推進 (市場活性化)

(学外組織)

2013

一般社団法人 高齡社会検定協会
(会長 小宮山宏 / 代表理事 秋山弘子)

ジェロントロジー知識・ノウハウの社会還元 (教育・啓発)

事業拡大に伴い改組

2017

一般社団法人 高齡社会共創センター
(センター長 秋山弘子)

ALL JAPANで高齢化課題解決を推進 (プラットフォーム)

東京大学高齢社会総合研究機構(IOG)の活動概要



安心して活力ある超高齢・長寿社会づくりをリード
高齢化課題先進国⇒高齢化課題解決先進国へ

研究

地域連携

震災復興支援事業
(11-)

千葉県柏市における共同研究事業(東大-柏モデル地域創造)
⇒【柏市豊四季台地域高齢社会総合研究会】による活動展開

- ①在宅医療を組み込んだ地域包括ケアシステムの具現化
- ②セカンドライフ支援事業の創造(生きがい就労事業等)
- ③住まいと移動に関する課題解決

福井県との共同研究

地方都市における在宅医療を含めた在宅ケアシステムの構築 他

産学連携

ジェロントロジー・コンソーシアム(09-10)
⇒ジェロントロジー・ネットワーク(11-)

国際連携

スウェーデンとの交流、東アジア各国研究者との交流 他

基盤研究・基礎研究／受託研究・共同研究

教育

ジェロントロジー大学院(GLAFS)
学部横断ジェロントロジー教育 他

啓発

パブリシティ活動(講演・執筆、メディア対応等)

高齢社会検定試験事業の推進
※学外活動

【地域連携】柏市における「長寿社会のまちづくり」プロジェクトの取り組み

東大IOG-柏市-UR都市機構の共同事業(2009年度～)
柏市豊四季台地域をフィールドにした超高齢社会対応のモデル地域開発

テーマ・コンセプト⇒「Aging in Place」社会の実現
・・・住み慣れた地域で最期まで自分らしく老いることができる社会の実現



生きがい溢れる豊かなセカンドライフ
実現のための
【A】「生きがい就労事業」

最期まで確かな安心を提供するための
【B】「地域包括ケアシステム」
(在宅医療と連動したケアシステム)

引きこもらず外に出て人と集い楽しむ
【C】「歩いて暮らせるコミュニティ」
(豊かなコミュニティスペースのまちづくり)

【産学連携】ジェロントロジー・ネットワークの展開

(2009-10年度)

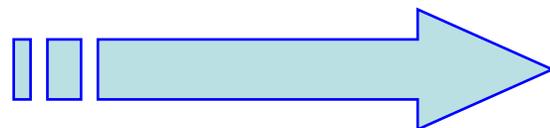
東京大学
産学連携組織
ジェロントロジー
コンソーシアム

2009年度 39社

(2011年度～)

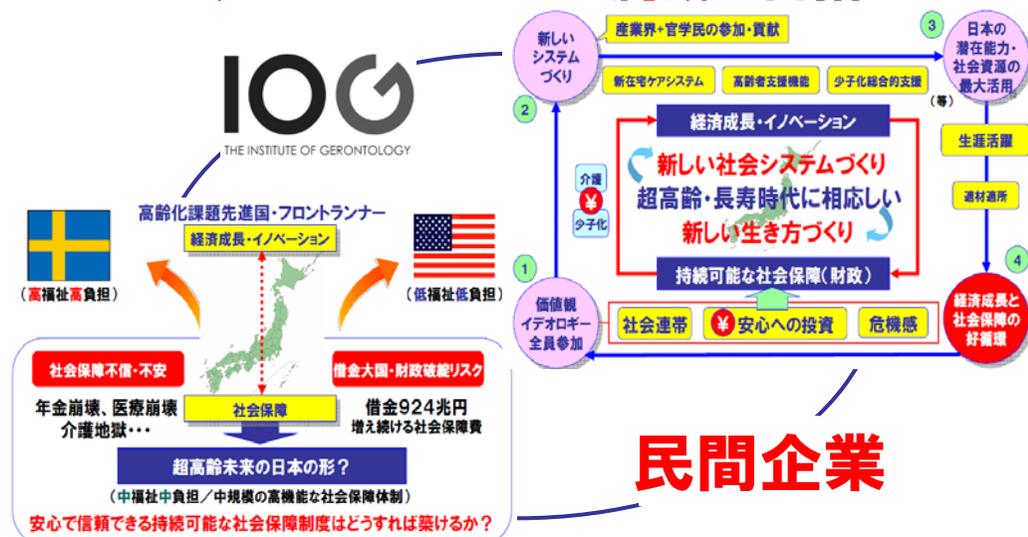
東京大学
産学連携組織
ジェロントロジー
ネットワーク

のべ100社参加



(2011年度より組織名を改称し、
新たな産学連携組織に発展)

- 10年度までの活動で「**2030年超高齢未来に向けた産業界のロードマップ**」を作成
⇒書籍として発刊
- 超高齢社会に必要な**新たな産業(商品・サービス)・イノベーションの創成を目指す**





高齢社会共創センター



とともに高齢化課題解決を推進するアクション・リサーチ・プラットフォーム拠点



長寿社会に必要な“新しい価値”を 民 産 官 学 で共創する！

共創事業

Citizen Centered Design

リビングラボ事業

調査研究・コンサル事業

社会教育事業

課題解決型研修事業



- 高齢化課題解決をリードできる人材養成 (主に自治体職員向け)
- ① セカンドライフ支援研修
- ② 地域包括ケア推進研修
- ③ 地域資源活性化研修

高齢社会検定事業

- ジェロントロジーの基礎知識を提供合格者「高齢社会エキスパート」は1700名超に (2013~高齢社会検定協会からの移行事業)

会員サービス事業

■ 名称：一般社団法人 高齢社会共創センター

■ 創設年月：2017年4月

■ 所在地：東京都文京区弥生 2-11-16 東京大学工学部 9号館総合研究機構内

■ センター長 (代表理事) 秋山弘子 (IOG特任教授) ※顧問・理事・監事 18名

高齢社会共創センター
Co-Creation Center for Active Aging

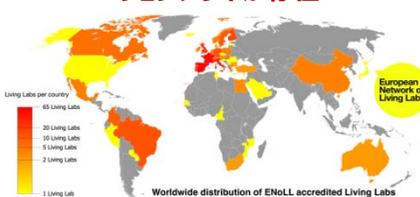


<http://www.cc-aa.or.jp/>

■ リビングラボ (Living Lab) とは

特定の地域をベースに民産官学が共創する形で、まちづくり (地域が有する課題の解決等) や商品・サービス開発等を行う地域に常設された共創拠点

世界では欧州を中心に約400の
リビングラボが存在



生活者 (当事者) が企画段階から参加
新たなオープンイノベーションの場



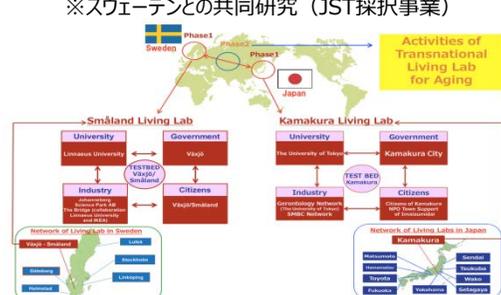
生活者 (当事者) のニーズに合う
より質の高い成果・解決策を産出

■ 「鎌倉リビングラボ」を立ち上げ展開

生活者ニーズ・自治体ニーズ・企業ニーズにもとづく各種プロジェクトを実施

■ 日本版リビングラボ・ネットワークの構築と 国際連携型リビングラボの創設を計画・遂行中

※スウェーデンとの共同研究 (JST採択事業)





Gerontology Literacy Test
高齢社会検定試験のご紹介

～安心で活力ある超高齢・長寿社会へ～



1. 高齢社会検定試験の趣旨・概要

★現代社会に不可欠な**3大スキル**⇒

英語

ICT

高齢社会

個人の**人生設計課題**、**社会の高齢化課題**を解決し、
より豊かな**未来を築くために必要な知識**を提供！

自分の将来？

日本の未来？

社会保障の行方？

高齢期の就労？

高齢社会は知らないことだらけ

これからのまちづくり？

高齢期のお金？

自分の将来に役立つ！

仕事に役立つ！

住宅と移動？

福祉技術・権利擁護？

老化・認知症？

高齢者ニーズ？

テキスト

「東大がつくった**高齢社会の教科書**」

2. 高齢社会検定試験 公式テキスト（ジェロントロジーの教科書）

2017年3月
「改訂版」
発刊



<テキスト(書籍)> (@1800円+税、300頁)

◆編著：東京大学高齢社会総合研究機構

◆編集協力：ニッセイ基礎研究所

※執筆者：東京大学高齢社会総合研究機構メンバー（教授）他

※出版・販売：東京大学出版会

総論【共通】

第1章：超高齢未来の姿

第2章：超高齢未来の課題

第3章：超高齢未来の可能性～課題解決に向けた方向性

I. 人生100年時代のライフデザイン【個人編】 (個人のエイジング課題の解決に向けて)

第4章：長寿時代の理想の生き方・老い方

第5章：高齢者の活躍の仕方(就労・社会参加・生涯学習等)

第6章：高齢者の住まい

第7章：高齢者と移動

第8章：高齢者の暮らしとお金

第9章：高齢者の暮らしを支える社会資源

第10章：老化の理解とヘルスプロモーション

第11章：認知・行動障害への対応

第12章：最期の日々を自分らしく

II. 超高齢社会のデザイン【社会編】 (社会の高齢化課題の解決に向けて)

第13章：超高齢社会と社会保障

第14章：医療制度の現状と改革視点

第15章：介護・高齢者福祉の現状と改革視点

第16章：年金政策の現状と改革視点

第17章：住宅政策・まちづくり

第18章：交通・移動システム

第19章：ジェロンテクノロジー(福祉工学)

第20章：高齢者と法・自己決定と本人保護

3. 高齢社会エキスパート認定証（合格証）

<p style="text-align: center;">認 定 証</p> <p style="text-align: center;">高齢社会エキスパート 総合</p> <p style="text-align: center;">検定 太郎 殿</p> <p>あなたは、一般社団法人 高齢社会検定協会が主催する「高齢社会検定（総合）」において優秀な成績を取められ見事に合格されました。ここに「高齢社会エキスパート（総合）」として、「高齢社会」及び「ジェロントロジー」の高い知識と教養を保有されていることを認定いたします。</p> <p style="text-align: center;">平成 25 年 10 月 10 日 認定番号 130000001号</p> <div style="text-align: center;"><p>高齢社会検定</p></div> <p style="text-align: center;">一般社団法人 高齢社会検定協会</p>	<p style="text-align: center;">証</p> <p style="text-align: center;">パート 社会</p> <p style="text-align: center;">郎 殿</p> <p>社会検定協会が主催する「高齢社会」及び「ジェロントロジー」の知識と教養を有していることを認定いたします。</p> <p style="text-align: center;">平成 25 年 10 月 10 日 認定番号 130000001号</p> <div style="text-align: center;"><p>高齢社会検定</p></div> <p style="text-align: center;">一般社団法人 高齢社会検定協会</p>	<p style="text-align: center;">証</p> <p style="text-align: center;">エキスパート 個人</p> <p style="text-align: center;">太郎 殿</p> <p>高齢社会検定協会が主催する「高齢社会」及び「ジェロントロジー」の知識と教養を有していることを認定いたします。</p> <p style="text-align: center;">平成 25 年 10 月 10 日 認定番号 130000001号</p> <div style="text-align: center;"><p>高齢社会検定</p></div> <p style="text-align: center;">一般社団法人 高齢社会検定協会</p>
--	---	---

【合格者には認定証を発行】
高齢社会エキスパートであることは、ジェロントロジーの基礎知識を有している、つまり高齢社会・高齢者及び長寿時代の人生設計に関する総合的な理解ができていることを証明する

★合格者「高齢社会エキスパート」の声★

お仕事の面で

高齢社会に特に関心はなかったが、会社の勧めで勉強（受験）したら、これからの日本の未来の状況がよく理解できるようになって、**仕事の視野が広がった**

高齢化対応の新事業開発を担当することになり、テキストにある**データや情報はとても参考**になった。またこの試験に合格したことで、**自信がついて説得力がアップ**した

普段、ご高齢のお客様と接する機会が多いのですが、この試験を勉強して、**高齢者の気持ちや健康のことなどよくわかり**、会話がしやすくなった。**名刺に「高齢社会エキスパート」と書いて**いることも、高齢のお客様には印象がよい

高齢化の課題解決に向けた制度や政策をはじめ、世の中全体の動きを理解することができて、**ビジネスアイデアが膨らんだ**

会社の人事が奨励する資格なので、**人事考課上プラス**になる

私たちは
**高齢社会
エキスパート**



プライベートの面で

老後について、漠然とした不安しかなかったが、健康のこと、お金のこと、家のこと、また社会との関係など、**高齢期の生活イメージがクリア**となって希望が持てるようになった

親の介護をしているが、ケアのこと、認知症のこと、介護施設のことなど、改めてよく理解できた。**もっと早く学んでおけばよかった**と思った

人生90-100年におよぶ人生の長さを改めて認識した。**健康で長生きする秘訣**もわかった。家に閉じこもりがちな父に、もっと外に出て活躍するように言います

高齢者の話が中心ですが、これは**若い人ができるだけ早く学んだほうが**いい内容だと思った

合格者が集まる交流会に参加して、幅広い業種の方、年代の方と知り合うことができ**人脈が広がった**。合格者の皆さんの活躍の話を直接聞けて**刺激になった**

<本資料に関する問合せ先>

ニッセイ基礎研究所 ジェロントロジー推進室

担当：前田（主任研究員）
（東京大学高齢社会総合研究機構 客員研究員）

TEL：03-3512-1815

Email: maeda@nli-research.co.jp